

参議院議員

片山 さつき



小学生の頃だから、昭和40年代のことになります。埼玉真浦和市(現さいたま市)で生まれ育った埼玉都民の私の両親は、ともに東京生まれでした。私にとって夏を過ごす故郷は、群馬でした。赤城山の南山ろくの当時の勢多郡新里村(町)字(あざ)「野」、通称「野村」が、私の母方の祖母、井上はん、旧姓千本木はんの生まれ育った家です。番部屋

祖母は、群馬の広大な大地を見るのが大好きで、東京の井上家に嫁いでも、上州人であることをとても誇りにしていました。96歳で大往生した、身も心も丈夫な人でした。娘時代、新里から高崎の高崎女子高等学校まで、毎日2時間かけて馬車で通ったという、「伝説」の持ち主で、今でも「高女」には祖母の絵が残っているはず

が、私自身が国会で問題提起している生活保護、裏を返せば、「前橋に仕事を増やそう」というものです。わが国の生活保護率は、平成20年度の時点で12.5%(パーミル・千人に対する比率)であったのに対し、平成24年6月現在では16.5%にまで上昇しています。一方、「働かざる者食うべからず」

母の弟が斉藤虎五郎氏。日銀幹部から横浜正金銀行頭取をつとめ、群馬銀行中興の祖とも言われた金融家です。私の「はとこ」も今、群馬銀行に勤めています。私が大蔵省に入った時には、当時まだ生きていた祖母は、「斉藤のおじさん」のことをしきりにいって喜んでいました。祖母

の所に連れていき、大仲人のような形で両家の主賓をお受けいただきました。その後も元総理がおおくなりになるまで毎年、旧赤坂プリンスの事務所に挨拶に行き、私が主計局で女性初の主査ポストについたときには、とても喜んでくださいました。次のようにおっしゃいました。「こ

つて女性初の主計官になりましたが、そのポストが、10年に一度しか行われない、防衛大綱担当の防衛主計官だったのは、なんとという奇遇でしょうか。歴史に残る大論争の末、日米同盟強化のためミサイル防衛を導き、北方の戦車と火砲を削るという決着したのですが、その

は務めました。2期目はほろ負け。参院全国区に変わってはどうかと声をかけてくれたのが、今所属している志師会、旧中曽根派です。参議院で、中曽根弘文参議院議員会長を、微力ながら副幹事長としてお支えしている毎日です。

夫片山龍太郎の父、岳父片山豊はマルマンゴルフの創設者で、関東エリアにおける最大のお得意さんの一つが、群馬の有賀園ゴルフ。参議院議員の片山さつき氏はこのほど、群馬経済新聞社を訪れ、小曾根正春本社社長らと懇談した。話題の中心となったのは、片山氏と群馬とのつながり。そこで、自称「4分の1上州人」の片山氏に、群馬とのさまざまな縁について執筆してもらった。

寄稿 群馬県と「片山さつき」の縁

の群馬の県庁所在地前橋においても、生活保護率が平成20年度の時点で8.8%であったのに対し、平成24年6月現在では10.7%にまで上昇していたとは

の姉が嫁いだ多賀谷家も、伊勢崎の市議会議長などを出している名家です。

れからの時代、女性でも国際局長や財務官にはなれるだろう。ずつとそっこの畑にいたらいいのに。自分は、戦前陸軍の主計官(昭和9年、16年)の時に、軍人に脅され大変だった。金の話になると人間は理屈ではないから、女は身が危ない。余計な傷を負わないように」。その後10年た

過程である事ない事言われてほろほろになりました。終わつたあとに福田康夫官房長官のところに伺ったところ「オヤジの遺言」的なお話になって、大笑いでした。

小泉総理からの直接の口説きで衆院選に引っ張り出され、縁もゆかりもない静岡県西部で選挙区で勝って1期

父方の祖母の実家、上越(糸魚川)の銀林家は、1200年来の神主で、江戸時代は医

今年、前橋の市長選挙があり、群馬県連のご要請で何度か、現職山本龍市長の応援にも行かせていただきましたが、テーマの1つ

祖母の母は、齊藤家から嫁に来ていて、祖

母の母は、齊藤家から嫁に来ていて、祖

母の母は、齊藤家から嫁に来ていて、祖

母の母は、齊藤家から嫁に来ていて、祖

母の母は、齊藤家から嫁に来ていて、祖

母の母は、齊藤家から嫁に来ていて、祖